

新宮山彦ぐるーぷ第2407回

## 令和8年新春登山・馬山（南伊勢町 198.8m）

◇実施日 1月3日（土） 晴

◇参加者 梶野照雄、大江加予子・徳子、畑林秀味、松本吉殖、

阪口雄二、濱野兼吉、山本直子、志岐敬、村吉光夫、

由井洋三、青木宏光 12名

昨年の新春登山は尾鷲の海路山だった。今年も新春登山を企画し、午年なので名前に馬が付く山を探し、兵庫県太子町と南伊勢町に馬山があることが判った。新宮から太子町までは距離があるので、南伊勢町の馬山を第一候補として11月に下見した。



駐車場は満車

歩き出す

五ヶ所城跡

標高が198.8mで歩行距離が1.5km、40分で山頂に到着す

る。おまけに約半分が舗装された農道なので、お正月の怠けた体でも十分登頂が可能だ。昨年未までは参加希望者が少なく、中止の可能性もあったが、1日になって申し込みが増え総勢12名の参加となった。



登山口

山頂に着く

五ヶ所湾の眺め

午前9時過ぎに集合場所の「愛洲の館」駐車場に着く。伊勢神宮の初詣渋滞を予想してかなり早く家を出たが、渋滞は全くなく普段より若干早く着いてしまった。意外なことに広い駐車場はほぼ満車で隙間を見つけて車を停めた。滋賀の高島から参加してくれた青木氏が到着していた。昨日出て車で泊まっていたそうだ。箕面の由井さん、天理の村吉さん、奈良の山本、志岐さんが順に到着し、遠方組が先に揃う形となった。午前10時過ぎ、新宮の6名が着き全員が揃った。簡単にコースの説明をし、歩き始める。鍛錬の段と名付けられた石段を登る。村吉さんが何段あるか数えていたが110段ほどあるようだ。石段を登り切って五ヶ所城跡へ向かう。城主だった

愛洲移香齋は剣術の「影流」を会得した人物とされ、剣術を学ぶ人たちに祖として慕われている。小説やテレビで聞いたことがある柳生新影流はこの影流を元にしたものだ。毎年8月下旬にこの場所に全国から剣術愛好者が集まり、それぞれの術を奉納する大会が行われるそうだ。五ヶ所城跡を少し戻って馬山の登山口を目指す。愛洲の館の東側の道路に出て、奥に延びる農道を進む。農道は途中で枯れ枝や砂利が流れ出していて今は使われていないようだ。15分ほどで馬山登山口の標識があり、農道を離れて山に取り付く。



本日の参加者

下山開始

古井戸

ここからはひたすら登りが続くが、斜度は大したことは無いので、ゆっくり歩けば息切れも少ない。所々に中部電力の標識があり、途中で鉄塔の下を通過するので、送電線の巡視路になっているようだ。一度休憩を取り55分で山頂に着いた。山頂はさほど広くは無いので、昼食は下山後にした。写真を撮って、大江さんが持ってきてくれたコーヒーを頂いた。山頂にいた5人の女性グループにお菓子を

お裾分けしたら、地元のミカンを頂いた。



牛鬼の石像

頭彰碑

愛洲の館に帰着

30分ほど山頂に留まり下山開始。帰りは五ヶ所城跡を通らず、古井戸、切石の祠、牛鬼の石像を回って駐車場に戻った。愛洲の館横の芝生で昼食を摂り解散した。  
(記：梶野)

### 行動タイム

愛洲の館駐車場 10:23 → 10:32 五ヶ所城跡 → 11:20 馬山山頂 11:52 → 12:35 愛洲の館駐車場